

《担当者名》教授 / 泉 剛

教授 / 柳川 芳毅 教授 / 大橋 敦子 准教授 / 町田 拓自 准教授 / 山田 康司 講師 / 鹿内 浩樹
特別講師 / 大川原 淳 (大川原脳神経外科病院)

【概 要】

これまで学んだ医薬品の薬理作用の知識を基に、疾患の病態を考慮して選択すべき薬物治療について臨床的観点から考察を加える。

1. 薬物の人体への作用を整理して、疾患治療における有用性を知る。
2. 臨床での薬物治療という観点から、病態との関係に基づいた合理的な医薬品の使用法を学ぶ。
3. 医薬品の薬理作用と主な副作用を考慮して、各種疾患に対する治療効果を学ぶ。
4. 自動調剤システムの導入による薬剤師業務の変化について学ぶ。

【学修目標】

臨床的に頻度の高い疾患について、薬理学的根拠に基づいた合理的な薬物療法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	悪性腫瘍の薬物治療 抗悪性腫瘍薬の副作用と支持療法 資料を配布する。	● 悪性腫瘍疾患の薬物療法について説明できる。 ● 抗悪性腫瘍薬の副作用と支持療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1~13	柳川 芳毅
2	抗菌薬による薬物療法 教科書7：p130~147 資料を配布する。	● 細菌感染症を分類し適切な抗菌薬を選択できる。 ● 抗菌薬を作用機序に基づき分類できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1~10	柳川 芳毅
3	循環器疾患の病態と薬物治療 資料を配布する。	● 循環器疾患の薬物療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(3)-1, 2 E2-(3)- -1~5 E2-(4)- -1~4	鹿内 浩樹
4	技術は未来の医療を救えるか? ロボット調剤システムの導入による 薬剤師業務のサポート 資料を配布する。	● 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について説明できる。 ● 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(1)- -2	大川原 淳 泉 剛
5	代謝系・内分泌系疾患の病態と薬物治療 資料を配布する。	● 代謝系疾患の薬物療法について説明できる。 ● 内分泌系疾患の薬物療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(5)- -1~3 E2-(5)- -1~5	大橋 敦子
6	血液・造血器系疾患の病態と薬物治療 教科書1：p94~124 資料を配布する。	● 血液・造血器系疾患の薬物療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1~5	町田 拓自
7 {	抗菌薬の化学構造	● 抗菌薬(β-ラクタム系、ニューキノロン系、マクロライド系、テトラサイクリン系、アミノグリコシド系	山田 康司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
8	教科書9：p210～228	抗菌薬)の構造を説明できる。 ● 抗菌薬の作用機序を説明できる。 ● 薬物の基礎構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C4-(3)- -4,5 E2-(7)- -1 E2-(7)- -1	
9 (10	抗悪性腫瘍薬の化学構造 教科書9：p48～79	● 抗悪性腫瘍薬(分子標的薬、代謝拮抗薬、白金化合物等)の構造を説明できる。 ● 抗悪性腫瘍薬の作用機序を説明できる。 ● 薬物の基礎構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C4-(3)- -1 C4-(3)- -1～3 E2-(7)- -1～3 E2-(7)- -1	山田 康司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験(100%)で合否の判定を行う。

定期試験後は、試験問題の解答と解説を、「遠隔授業ポータルサイト(g-drive)」にアップするので、学修に活用すること。

【教科書】

- 1 「薬物治療学 改訂8版」 南山堂
- 2 「病気がみえる Vol.1」 Medic Media
- 3 「病気がみえる Vol.2」 Medic Media
- 4 「病気がみえる Vol.3」 Medic Media
- 5 「病気がみえる Vol.4」 Medic Media
- 6 「病気がみえる Vol.5」 Medic Media
- 7 「病気がみえる Vol.6」 Medic Media
- 8 「病気がみえる Vol.7」 Medic Media
- 9 「現場で役に立つ! 臨床医薬品化学」臨床医薬品化学研究会 編 化学同人

【参考書】

- 「疾患と治療薬 - 医師・薬剤師のためのマニュアル」 南江堂
 「疾病の病態と薬物治療」 廣川書店

【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。

【学修の準備】

授業内容について小テストを施行することがあるので、毎回復習しておくこと。

小テストの解答についての解説は授業時間内行う。

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと(50分)。

復習は、プリント、講義メモ並びに教科書、参考図書を活用して学修を深めること(50分)。

【関連するモデル・コア・カリキュラムの到達目標】

C4 生体分子・医薬品の化学による理解

(3) 医薬品の化学構造と性質、作用

【 酵素に作用する医薬品の構造と性質】 -1, 4, 5

【 DNA に作用する医薬品の構造と性質】 -1, 3

E1 薬の作用と体の変化

(3) 薬物治療の位置づけ -1, 2

E2 薬理・病態・薬物治療

(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖系系の疾患と薬

- 【 循環器系疾患の薬、病態、治療】 -1～5
- 【 血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】 -1～5
- (4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬
 - 【 呼吸器系疾患の薬、病態、治療】 -1～4
- (5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬
 - 【 代謝系疾患の薬、病態、治療】 -1～3
 - 【 内分泌系疾患の薬、病態、治療】 -1～5
- (7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬
 - 【 抗菌薬】 -1
 - 【 細菌感染症の薬、病態、治療】 -1～10
 - 【 悪性腫瘍】 -1～3
 - 【 悪性腫瘍の薬、病態、治療】 -1～13
 - 【 化学構造と薬効】 -1

F 薬学臨床

- (1) 薬学臨床の基礎
 - 【 臨床実習の基礎】 -2

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

泉 剛（医師）、柳川 芳毅（製薬企業において創薬研究に従事）、大橋 敦子（獣医師）、町田 拓自（薬剤師）、鹿内 浩樹（薬剤師）、大川原 淳（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、獣医師、薬剤師としての実務経験に基づいて、臨床に即した臨床薬理の講義を行う。
創薬に携わった実務経験を活かし、実践的な教育を行う。